

桐
朋

二〇二二年度 (中学) 国 語

《注意》

始まりのチャイムが鳴るまでに、次の注意をよく読んでおきなさい。

- 一 始まりのチャイムが鳴るまで、問題や解答用紙に手をふれてはいけません。
問題一冊(11ページ)と解答用紙一枚です。
- 二 試験の始めと終わりは、チャイムで合図します。
試験時間は、八時三十五分～九時二十五分の五十分間です。
- 三 始まりのチャイムが鳴ったら、解答用紙に受験番号、氏名を記入しなさい。
- 四 問題の内容について質問してはいけません。
- 五 困ったこと(筆記用具を落としたときなど)があつたら、だまって手をあげなさい。
- 六 持ち物をかしたり、かりたりしてはいけません。
- 七 答えはすべて、解答用紙に記入しなさい。
- 八 終わりのチャイムが鳴ったら、すぐに筆記用具をおき、解答用紙をうらがえしにして、問題の上におきなさい。
- 九 解答用紙だけ回収します。

桐
朋

桐
朋

◆ 問題は次のページから始まります。

一 次の文章を読んで後の問に答えなさい。なお、*印のあることばには注が付けてある。

アメリカに来て、子供たちは、週のうち五日間は、現地のファームランド小学校にかよい、土曜日だけは、日本語学校にかようことになった。

ファームランド（農地）小学校の、シンボルマークは、校名にぴったりの、カカシ。校内のどこにも、やぶれ帽子に、つりズボンのかわいいカカシくんの人形や絵がかざってある。

校舎は、赤レンガ建てで、まわりには林檎の木があり、リスたちが遊びまわっている。森にかこまれた校庭が、ぜんぶ芝生、というのには驚いた。

① 先生たちは、机に腰かけて、コーヒークップ片手に授業している。校長先生は、ドクター・ウェハーというのだが、日本の子供たちは、「ドクター・ウェハー」と呼ぶのだ。彼は、ほんとうに頭のまんなかだけハゲていて、白いふわ帽子を、チョコンとのせて歩いている。おまけに「おやつ時間」までである。人形をだっこして登校する子もいる。

子供たちは、学校にすぐとけこんだ。帰ってくると、公園でフットボールや、サッカーをして、暗くなるまでよく遊んだ。

しかし一か月ほどすると、息子の淳が、やたら学校でケンカをするようになった。淳のいらだちの原因は、いろいろあった。ことばの問題が、やはり大きかった。

生来、風来^{ふうらい}気^きいのある淳には、クラスの自由ムードが、よく合ったから、しゃべりたくて、友だちがほしくてしようがない。しかし、周囲は、チンパンカンパンの英語のカベである。しかも、日本語は禁じられている。たまらなくなつて、淳は日本語で叫ぶ。ひとりごとをいう。

② 彼は、自分の話す日本語に、だれよりも自分自身が傷ついているのだった。

担任の、ミセス・ローリーから呼びだしがあったのは、十一月初旬のことである。教室には、彼女と、イーソール（英語を話せない子供をタイショウに英語を教えるクラス）担任の、ミセス・ラットクリフが、私たちを待っていた。彼女たちは、一言ずつはつきり発音しながらいう。

「ジュンは、大声で、ニホンゴをしやべって、授業のじやまをする」

「ジュンは、教室からエスケープする。ジュンは、トイレになんどもいく。私は、彼をつれもどしにいく。彼は、またエスケープする。ジュンは……」

淳は、正直な、カンジュ性のつよい子だということ。ほんとうは、学校が大好きなのだということ。小さいときから、ひっこしばかりして、学校をかわつたのは、これで三度目なのだということ。父親は、そういうことを、率直に、先生たちに話した。そばで聞いている私には、話している彼のもどかしさが、よくわかる。ものごとの輪郭を、はっきり説明すればするほど、英語からは、肝心なものがぬけおちてしまう、そのもどかしさが。

けれど、先生たちは、深くうなずきながら、熱心に話を聞いてくれた。

「ジュンは、サッカーがとてもうまい。みんなは、ジュンを、自分のチームにほしいといっている。算数もよくできる」

③ ミセス・ローリーがいったとき、私たちはうれしかった。

話しあいには、一時間足らずで終わった。もう、授業のはじまる時間だった。私たちは、早朝の七時半から、学校にきていたのである。

フランス人形のような顔立ちの、スラリと美しい、ミセス・ラットクリフは、別れぎわにいった。

「私は、ギリシャや、イタリアや、いろいろの国をまわりました。小さかった息子は、苦勞しました。私も苦勞しました」

④ そうか、それでこのひとは、イーソールの先生になったのだろう。きっと。学校の前には、黄色のスクールバスが、何台もとまっている。その中の一台に乗って、うちの子供たちも、登校しただった。

現地校で一戦構え、日本人の少年仲間たちと何かイザコザがあり、淳は、傷ついて帰ってくる。おおかたのサツしはついても、私は、すこし離れて黙って見ている。

十一歳。思春期のほんのすこし手前で、子供時代の最後をすこしている淳には、父親が必要なのだ。

父親が帰ってきて、親子四人、夕飯の丸いテーブルをかこむ。あるいは、淳が父親といっしょに、お風呂に入りたがる。そういう時に、淳は、ポツリポツリと、^⑤昼間あったいやなことの一部を、いいことや、楽しいことの中に、まぜてしやべる。だれも何も言わないが、淳の一番痛い部分が、みんなにはわかる。

顔をほらして帰った日、淳は、だれになぐられたのか言わなかった。夕飯がすんで、外はまだ明るい。父親と息子は、何か相談していたが、グローブとボールを持って、どこかへ出てゆく。こういう時の父親は、さり気なく、たのしそうにしている。そして、すこし汗をかいて帰ってきた時も、さり気なく、やはりたのしそうだ。息子の方は、^⑥すっかり、塩気というか、湿気の抜けた顔をして帰ってくる。

二人でお風呂に入り、二人で子供部屋にひっこみ、ベッドの上で将棋を始める。しばらくすると、淳の、キャッキヤ騒ぐ声にまじって、「飛車角抜きで、やってやってんだよ。しつかりしろよ」とか、「おまえなあ、もう、アホなケンカは買うなよなあ」と、ボソボソ言う声がきこえる。何回戦かやっているうちに、父親の方がおもしろくなり出して、そのうち夜も随分おそくなる。

そして、いつも、「今夜は、宿題、せんでよろしい」ということになるのである。

息子をなぐったのは、一度か二度しかない父親である。頭から、^⑦を落としたのを見たことがない。

五歳にもならない小さいころに、生みの母からひき離され、寂しい幼少年時代を過ごした人である。そういう生いたちが、自分の息子を、大きくツツませるのだろうか。

そと目には、今はやりの、核家族の、ものわりのよい、やさしい父親ということになるのかもしれない。内側にいる私には、そうは思われない。

やさしいにはやさしいが、このやさしさは、遠くからじっと息子を見守っていた昔の父親のやさしさとは、どうも異質であるようだ。

息子に密着もしていない。息子から離れてもいない。Gパンをはいて、キャッチボールをしている距離^⑧。相手の身体が見え、相手のボールの手のぬくもりが、わかる距離。息子と地続きの所に立っていて、頭の上から息子を見ない。こういう父親像は、すくなくとも、私たちの世代が持った父親ではない。

私たちが、学生時代のことから、もう二十年も前のことになるが、そのころ、彼は年中、ゲタをはいて歩いてた。Gパンにゲタばきで、ガタゴト、ズーズーと歩いてた。脚は長いくせに、足をひきずって歩くクセがあるので、カラコロと爽快な音は出ないのだった。学生時代以来の書生気質は、今に続いている。淳の父親は、日本に帰っても、今度はゲタのかわりに、ピチャパタと、ゴムぞうりなどひつかけて、授業参観にも、職員室にも出かけてゆくだろう。ともかく、さしあたって、わが家の父親と息子の、お互いをたのしみあっているような、のんびりとしたつきあいを、私はおもしろく眺めている。

先のことはわからないものだが、淳が生まれた時から、今までを見てみると、わが家の父親は、息子が大きくなるに従って、父親という立場から、徐々に、友だちとしての比重を重くしてきていることは、確かなようだ。

(河野裕子『たったこれだけの家族』による)

* 風来……居所も定まらず、ぶらぶらしていること。

エスケープする……抜け出す。逃げる。

問一 — 線部①に描かれて^{えが}いる学校の様子から、筆者はどのような印象を持ったのか。本文中から五字以内のこ
とばを抜き出して答えなさい。

問二 — 線部②のようになる理由の説明として、最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 英語の勉強をなまけていたせいで、両親に迷惑^{めいわく}をかけ続ける自分が情けなくなるから。
- イ 英語が不得意なため、学校の規則を守りたくても守れない自分に失望してしまうから。
- ウ 英語のかべにぶつかることで、自分はみんなの仲間に入れずにいることを改めて実感するから。
- エ 英語ができないことが明らかになってみんなからばかにされてしまうことがわかっていいるから。

問三 — 線部③で、筆者がうれしく思った理由の説明として、ふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号
で答えなさい。

- ア 先生たちが、淳の悪い面だけでなく、良い面も話題にしてくれたから。
- イ 先生たちが、自分たちのつらい気持ちを感じ取ってなぐさめてくれたから。
- ウ クラスメイトが、淳のことを評価し認めてくれていることを聞いたから。
- エ 先生たちが、淳のことを気にかけ、考えてくれていることがわかったから。

問四 — 線部④とあるが、筆者は、ミセス・ラットクリフがイースールの先生になったのはなぜだと考えたのか。
わかりやすく答えなさい。

問五 — 線部⑤で、淳がこのようにしゃべるのは、どのような気持ちからか。わかりやすく説明しなさい。

問六 — 線部⑥とはどのような表情か。簡潔に答えなさい。

問七 — 線部⑦が「厳しくしかる」という意味の慣用句となるように をふさわしいことばで補いなさい。

問八 — 線部⑧について説明した次の文章の i ii をふさわしいことばで補いなさい。なお、iは、後
の「語群」の中から最もふさわしいものを選び、記号で答え、iiは、七字程度のことばを考えて答えること。

- ・ i をしっかりととらえながら、息子の ii ことができる距離^{きより}で接するということ。

- 【語群】 ア 学校での息子のいらだち イ 息子の置かれて^{じようきよう}いる状況
- ウ 息子の身体^{しんたい}の成長の度合 エ 父親に対する息子の思い

問九 — 線部について。今の淳には、なぜこの父親が必要なのか。本文全体をふまえ、くわしく説明しなさい。

問十 — 線部 a ~ d のカタカナを漢字に直しなさい。

二次の文章は、架空の町への旅を描きながら現代の社会を映し出す、ショート・ショート（とてもみじかい短編）集の一編です。これを読んで、後の問に答えなさい。

その町には空がなく、仰ぎ見る虚空はほかに光る銀色の粒子に塞がれていた。空だけではない。家も木も道人も車も、すべてが銀の粉に覆われて色を失い、そのきらきらした輪郭のみを浮きあがらせている。

これが銀色の町か……。

町には今日も多くの旅人が訪れ、まさに言葉通りの銀世界に魅了されていた。もしも宙を舞う銀粉のむこうにうつすらと、今も煙を噴きあげるドルド山のシルエットが見えなかったとしたら、この美しい粉が火山灰だなんて誰も信じやしないだろう。

そう、これはまさに死と隣合わせの美。住民たちはただ銀粉に見惚れるだけではなく、いつまた溶岩に襲われるともしれない恐れを抱えて生きているのだ。

「目下のところ、我々の共存はうまくいっている」

時折、旅人たちの前にそんな住民のひとりがゆらりと現れることもある。積もりに積もった銀粉で顔も性別もわからず、血液までが水銀と化しているかのような銀色の塊。

「約五十年前の噴火。ドルドの大悲劇。あの一夜で町は壊滅的な打撃を受け、人口は一気にハンゲンした。生き残った住人の半数も次なる噴火を恐れて町を出ていった。それでも残りの四分の一は住み慣れた故郷を

こへ残ったのだよ。残ったからにはドルドの機嫌を取り続けなければならない」

銀塊は愛と畏れの入り交じった声で、ドルド、とその名を人名のように口にした。

「もともとあの噴火は、ドルドの鬱屈した怒りが引き起こしたものだ。我々はドルドを軽視しすぎていたのだ。そこで噴火以降、我々はドルドとの共生をめざしてあらゆる研究を開始した。結果、ドルドは無視されるのを何より嫌うことがわかったため、我々は毎朝毎晩、ドルドのために祈りを捧げることにした。ドルドが音楽を解することがわかったと、ドルドに捧げるテーマソングも作成した。ドルドは人間がカニやエビの話で盛り上がっている状態を好むので、我々はひっきりなしにカニやエビの話題を口にいしている」

言われて耳をすませば、町に点々と群がる銀塊たちの方からは、たしかに「昨日、カニを食った」だの「エビフライは尻尾がうまい」だのの聲が漂ってくる。

「努力のかけがあり、ドルドの活動は弱まった。ドルドの撒き散らした銀色の灰は、そのめずらしさと美しさから世界中の注目を集め、この町は観光地として再生した。ドルドには感謝すべきなのだろうな。しかし、ドルドもまた我々の尽力には少なからず感謝をしているらしく、時折、火山なりに心憎いお返しをしてくれたりもする」

銀塊がちらりと頭上に目をやった。つられた旅人がふり仰ぐと、はらはら降りつる銀色の粉は、いつしか桜の花吹雪のような薄桃色に彩りを変えていた。

「今日は三番地のヒルレーノと五番地のフミラシッサが結婚する日。そろそろ式がはじまるようだな」

（森絵都「銀色の町」による）

問一 ― 線部 a s d の漢字はよみを答え、カタカナは漢字に直しなさい。

問二 …… 線部 A について。「銀世界」とは、もともとどのような意味か。簡潔に答えなさい。

問三 …… 線部 B 「心憎い」の意味としてふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア わざとらしく気にさわる

イ 心にしみじみと感じられる

ウ 不器用ながら思いやりのある

エ さりげない気遣いが感じられる

問四 ― 線部①に関連して。この火山灰が、ただ美しいだけでなく、人間の心身に大きな影響を与えるものであることを感じさせる表現を一文でぬき出し、その最初の五字を答えなさい。

問五 を補うのにふさわしいことばを考え、五字程度で書きなさい。

問六 ― 線部②は、話している本人はまじめに言っているのだが、読者にはおかしみを感じさせる表現となっている。どういうところがおかしいのか。わかりやすく説明しなさい。

問七 ― 線部③について。文章全体をふまえると、これは人々のどのような姿を表していると考えられるか。次の中から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア いつのまにか噴火の危険を忘れ、普通の生活を送るようになっていくこと。

イ 自分たちの身を守るために、多くの人が一つの流れにしたがっていること。

ウ なすべきことはすべてやつたと満足し、心おだやかに暮らしていること。

エ 話題にすべきことも見つからないまま、無意味な会話を続けていること。

問八 ― 線部④のことばからは、ドルドに対する複雑な思いが感じられる。その思いについて、できるだけ詳しく説明しなさい。

問九 文章全体をふまえると、……線部は、情景描写であると同時に、その町でどのようなことが起こっていることを表していると考えられるか。次の中から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア かつての町の風景が失われ、その記憶も薄れつつあること。

イ その町では、ものごとの本当の姿が見えにくくなっていること。

ウ 思わぬ事態にだれも対処できない状態が、その町で続いていること。

エ どの町とも区別がつかないほど、その町が近代化していること。

〔以上で問題は終わりです。〕

桐 明

二〇二二年度

中学 国語 解答用紙

受験番号

氏 名

一問一

問二

--

問三

--

問四

--

問五

--

問六

--

問七

--

問八 i

--

ii

問九

問十

a
b
c
し
d
ま

二問一

a
b
c
d
がる

問二

--

問三

--

問四

問五

問六

--

問七

--

問八

問九

--